

令和8年2月3日(火)
十勝教育研修センター

研究発表大会

開催 (Zoom)

協

力員研究

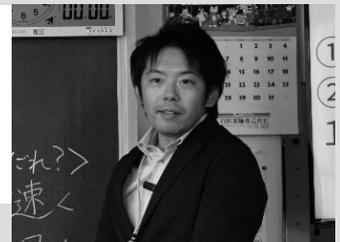


初山修斗副主任が、理論提案に続き、小・中学校それぞれにおける「各教科等+特別活動(学級活動)」の授業実践を紹介しました。教科等横断的な視点に立った授業デザインと意思決定につながる学習展開の工夫を通して、「他者を尊重し、責任をもって行動する子どもを育む研究」の総括を発表しました。



協
力員
研
究
実
践
発
表

授業者 石川 諒 教諭
幕別町立幕別小学校
第5学年 国語科
+ 特別活動



授業者 井脇 功陽 教諭
足寄町立足寄中学校
第2学年 理科
+ 特別活動



(上) 和田局長のご祝辞
(下) 研究アドバイザー・安食指導主事



参加者アンケートより

- ・情報活用能力の育成に向けた、教科等横断的な指導の具体像を明確にイメージすることができました。今後、体系的な指導計画の作成・実践を進めるに当たり、最後に紹介された資料もぜひ参考にさせていただきます。
- ・実態交流では皆さん同じような悩みをもっていたことから、教育界として取り上げる必要があると感じた。
- ・情報モラルを単なるルールの習得にとどめず、「意思決定」という資質・能力の育成にまで高めている点に非常に感銘を受けました。各教科で培った「情報の真偽を見極める視点」を、学級活動での議論につなげていくデザインは、まさに「学びがつながっている」理想的な形だと感じました。

校内研究や日常の授業実践にご活用いただければ幸いです。





令和7年度 十勝教育研究所

約150名の先生方にご参加いただき、今年で29回目となる十勝教育研究所研究発表大会を、盛会裏に終えることができました。

今年度も、Web会議システム（Zoom）を活用したオンラインでの開催とし、勤務校等から参加していただきました。

研究理論提案・実践発表後の実態交流では、参加者が自校や自身の取組と関連付け、明日からの授業に生かせる交流を目指し、ブレイクアウトルーム機能を活用して行いました。

本大会にご協力・ご参加いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

オンライン

共同研究

教師による**単元デザインの工夫**と、子ども自身による学習計画（見通し）・学習方法などの自己決定・振り返りといった**学びの自己調整**を通して、「**自ら学び続ける子どもを育む研究**」を進めました。佐藤悠樹所員が、理論提案と中学校での3回の授業実践、次年度につなげる研究の検証について発表しました。



授業者 **田村 陽和** 教諭
大樹町立大樹中学校
第2学年 社会科

参加者アンケートより

- ・自己調整学習とパフォーマンス評価、ルーブリック評価、知識を習得する時間の確保など今後を生かせる発表内容が良かったです。
- ・小学校段階でも学びの自己調整ができるように経験を積ませていくことが大切だと感じました。
- ・これからの授業改善にたくさんのヒントをいただきました。授業実践の様子もを見せていただき、とてもイメージが湧きました。
- ・単元デザインや学びの自己調整の工夫により、子どもがより興味をもって学習に向かう姿勢が感じられた。
- ・すばらしい実践で感動しました。子どもの学習もすばらしかったです。
- ・授業者の先生、お疲れ様でした。系統立てた授業展開がとても良かったです。自分の授業を振り返るきっかけになりました。
- ・見やすく、分かりやすくまとめられた発表でした。
- ・十勝中に研究成果が広まることを願っています。

共同研究実践発表



Zoom配信による大会運営の様子



研究の詳細は、当研究所 HP にて公開しておりますので、是非ご覧ください。